

「情報通信セミナー2022 in 静岡」を開催

＜デジタル変革で創る地域の先進的取組みや量子技術による新産業創出を紹介＞



東海総合通信局
本橋部長

東海総合通信局(局長 長塩 義樹)は、東海情報通信懇談会(会長 岩田 彰 名古屋工業大学名誉教授)との共催により、「情報通信セミナー2022 in 静岡」を開催しました。

「デジタル変革で創ろう 変えよう 暮らしと社会」をテーマとして、講演とパネルディスカッションが行われ、自治体、地域の企業などから、51名が参加しました。

冒頭、東海総合通信局 本橋情報通信部長から「デジタル田園都市構想」が動き出している。懇談会では、あらゆる生活シーンでデジタル化の流れが浸透していくような様々なイベントを開催していきたい」、また、同懇談会静岡地区連絡会古川幹事長から「デジタル/ICTの活用に関して、今後も静岡地区でセミナーを開催したい」との挨拶がありました。

裾野市 長田 雄次 氏からは、裾野市のデジタルで市民生活を豊かにすることを理念とした「SDCC構想(スソノ・デジタル・クリエイティブ・シティ構想)」に関して、ウーブン・シティ(Woven City)との連携した取組や交通、災害、超高齢化などの諸課題への取組についてご紹介いただきました。

(株)東芝 岡田 俊輔 氏からは、量子技術により、膨大なデータを活用することで新しい産業の創出が可能になってきているなど、国内59団体で構成する「量子技術による新産業創出協議会(Q-STAR※)」の活動を交えて、その先の未来社会についてご講演いただきました。

(※Quantum Strategic industry Alliance for Revolution)

静岡県立大学 大久保 あかね 氏からは、観光情報の発信に関して、「#伊豆市いいね」をキーワードに静岡県内の女子大生の取組や世代間で異なるSNSの利用率など、多角的な視点からご講演いただきました。

パネルディスカッションでは、講師の皆様と当懇談会の安田孝美幹事長(名古屋大学教授)をパネラーとして、デジタル変革の中での地域課題への取組みや新産業創出に向けた課題等に関して議論しました。デジタル変革により課題解決の選択肢が増える一方で、組織内で自らデジタル変革を取り入れる意識の醸成が必要であることや、デジタル変革が進むことで膨大なデータ処理を可能とする量子技術の普及が期待される中、早期に実用化するには多くの人々に量子技術の有効性を実感できる機会を設けることが重要といったコメント等がありました。

各パネラーからは、それぞれの立場からの率直なコメントがあり、今後のデジタル変革において意識すべきヒントが得られました。

コロナ禍のため、感染症対策を講じた上での開催となりましたが、参加者の皆様から大変好評をいただきました。今後も、皆様にICTの最新動向をお届けするよう工夫して参ります。



裾野市 長田 氏



(株)東芝 岡田 氏



静岡県立大学
大久保 氏



名古屋大学 安田 氏



古川静岡連絡会幹事長
NTT西日本 静岡支店



モデレーター
(株)クエスト 畠中 氏



パネルディスカッションの様子

お問合せ先:情報通信連携推進課 052-971-9314